

■みちのく自然共生園とは

東北地方のきびしい自然と人とのかかわり合いによって育まれた文化や里の自然を体験し、楽しみながら学ぶことができる施設です。再生された里の田園風景、居久根、草原、湿地、牧野など、みちのくらしい動植物が豊かな里の自然を、散歩しながら楽しめます。

■見どころ紹介

～里地の自然～

耕作地・水田・居久根

畑では、ソバや麦、青菜や蕪、豆類など東北地方の食文化にちなんだ作物を栽培しています。春は青麦が風にそよぎ、夏はソバの白い花が一面を覆い、秋は柿や栗が実ります。懐かしさとぬくもりのある、みちのくらしい里地の風景が楽しめます。

「居久根」とは屋敷林のことで、季節風を防ぎ、落葉や焚付けを採るための暮らしに欠かせない林でした。居久根に植えられた、田打ち桜とよばれるコブシが咲くころになると、その年の農作業が始まります。

～草原の自然～

展望野草園・サクラソウ園・放牧区

草が飼料や肥料として必需品であった時代には、里地に草原が維持されていました。草が利用されなくなると草原もなくなり、今では草原特有の動植物が絶滅に瀕しています。ここでは、かつて人の手で維持されていた草原（半自然草原）の再生を目指し、オキナグサ、サクラソウ、カワラナデシコ、キキョウなど、50種類ほどの野草を、この地域のタネから育てて増やしています。

放牧区ではヤギやヒツジを放牧し、ふれあい体験ができます。初夏に刈る羊毛は手仕事体験に利用しています。かつて草刈の時に使用した草泊りを復元してあります。

～水辺の自然～

湿生花園・ヨシ原・スゲ原・ヤナギ湿地林・小川

湿生花園では再生した湿地で、野草をタネから育てています。初夏から秋にかけて、カキツバタ、チダケサシ、クサレダマ、ヌマトラノオ、ミソハギ、コバギボウシ、サワギキョウ、オオニガナ等が咲きます。ヘイケホタルも生息するようになりました。

ヨシ原やスゲ原、ヤナギ湿地林は、かつての水田の跡地です。初夏のヨシ原ではオオヨシキリが子育てを行います。園内を流れる小川ではアブラハヤやスナヤツメ等の魚類、カワトンボ等の水生動物が生息しています。

～樹林の自然～

コナラ林・崖線樹林・ヤナギ林

コナラ林や崖線樹林では、下刈を行って明るい雑木林を再生し、樹林特有の野草を育成しています。春にはルリソウ、クリンソウ、初夏にはニッコウキスゲ、夏にはソバナ、秋にはキバナアキギリ等、四季折々の野草が咲きます。野草の豊かな雑木林の散歩が楽しめます。



..... : 春の花野探勝おすすめコース(1,600m)

..... : 山羊ふれあい体験場所へのコース(230m)



: 見所

～展望野草園からの蔵王の眺め～

快晴の日には、展望野草園の頂きから屏風岳、熊野岳など蔵王の山々の眺めが楽しめます。

また、東側には、北川を挟んでコナラの雑木林で覆われた里山地区や、こんもりとした釜房山が望めます。里山地区へは、ドックランの傍の橋を渡って、歩いて行けます。展望野草園から里山地区小野分校まで、約 1.9kmです。



～体験施設～

情報館

自然共生園の受付です。園内の見所や草花を、展示や映像などで紹介しています。草を素材としたクラフト等の体験ができるほか、イベント情報、野の花情報、生き物情報なども発信しています。随時、自然再生や農園活動、手仕事活動のボランティアさんを募集しています。

知恵体験舎

板の間や縁側で、のんびりと休憩できます。体験イベントでは、農作業体験や、ここで採れた作物を使った食品加工体験など、みちのくの自然との共生が育んだ暮らしの知恵が学べます。

●お問い合わせ先：みちのく公園みちのく自然共生園

TEL 0224-84-5991 (代表)

〒989-1505

宮城県柴田郡川崎町大字小野字二本松 53-9

<http://www.michinoku-park.info/wp/>

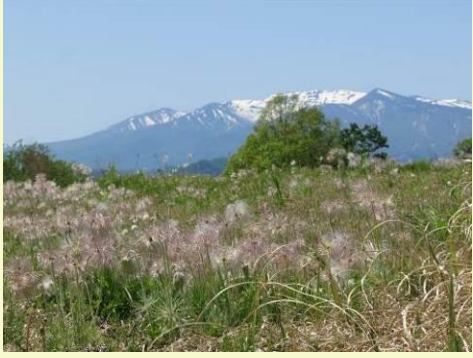


今日はここを観てみよう！

■草原の花

オキナグサ（位置A）

キンポウゲ科の多年草で、草原に生えます。草地の減少や盗掘によって幻の野草となってしまいました。白い毛の実を白髪に見立てて、この名前があります。宮沢賢治もこの野の花を愛し、「うすのしゅげ」の別名とともに、童話の中で美しく語られています。4月上旬から咲き始め、5月にはタンポポのような白い綿毛のタネを飛ばします。ごぼうのような根を深く伸ばし、乾いた場所でも育ちます。タネを蒔いて殖やし、東北地方では最大級の群生地となりました。



オカオグルマ（位置E）

湿性花園のサワオグルマによく似ていますが、オカオグルマは草原に生えます。草原の減少で、絶滅危惧種に指定されています。



今日はここを観てみよう！

■草原・カシワ林の花

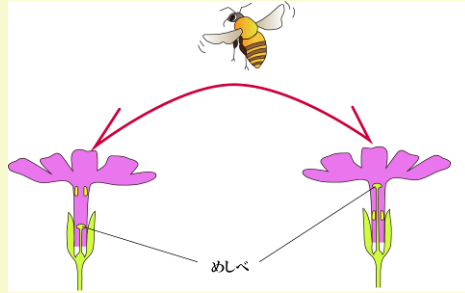
サクラソウ（位置D）

サクラソウ科の多年草で、草地やカシワ林等に生えます。カシワは芽吹きが遅いので、地面のサクラソウは春の光を受けることができます。草原の減少や盗掘によって減少し、宮城県や国の絶滅危惧種に指定されています。ここでは、畔などに細々と生えていたサクラソウを、ボランティアさんが中心となって守り殖やしています。



■サクラソウの保全

サクラソウは、雌しべが長いタイプと短いタイプの個体があります。同じタイプの個体同士で受粉しても、タネができません。花粉を運ぶのは、トラマルハナバチです。トラマルハナバチの生息には、春から秋までいろいろな花が咲く自然が必要です。そのため、自然共生園では、サクラソウ自生地の回りに草原や湿地を再生して、地元のいろいろな野草を殖やしています。



てくてくマップ 自然共生園



5月



今日はここを観てみよう！

■草原の花

ウスギタンポポ（位置F）

東北地方から中部地方に分布する薄黄色の珍しいタンポポです。新たな実生が定着できる環境を維持しないと、数年で消失します。



スズラン（位置G）

山地の草地や明るい樹林に生えます。里地では希少で、県の絶滅危惧種です。ドイツスズランとは異なり、花は葉に隠れ目立ちません。



ホタルカズラ（位置G）

草地や明るい樹林に生えるムラサキ科の多年草です。青紫の蛍光色の花が名の由来です。花後にツルを伸ばします。



今日はここを観てみよう！

■樹林の花

ルリソウ（位置I・K）

ムラサキ科の多年草で、勿忘草の仲間です。本州中部以北のやや湿った樹林に生えます。花の色は桃色から青色まで変化があります。宮城県の準絶滅危惧種に指定されています。



ラショウモンカズラ（位置L）

シソ科の多年草で、林内のやや湿った場所に生えます。花の姿を、渡辺綱が羅生門で切り落とした鬼女の腕に見立てました。



サクラスミレ（位置K・L）

大きな花を咲かせるので、スミレの女王と呼ばれます。桜の花弁のように縁が窪むのが特徴です。消長が激しいスミレです。



今日はここを観てみよう！

■水辺の花

ミツガシワ（位置B）

ミツガシワ科の多年草で、寒冷地の湿地などに生えます。カシワのような大きな三つ葉が名の由来となっています。太い茎を水中に伸ばして、広がります。



サワオグルマ（位置B・C）

湿地に生えるキク科の多年草です。しばしば一面に群生し、湿地を黄色に染めます。若い葉には白い綿毛があり、山菜に利用する地域もあります。



クリンソウ（位置H・J）

サクラソウ科の多年草で湿地や林内の水辺に生えます。花の咲き方を、お寺の屋根の先端に付いている「丸輪」に見立てました。宮城県の絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。

